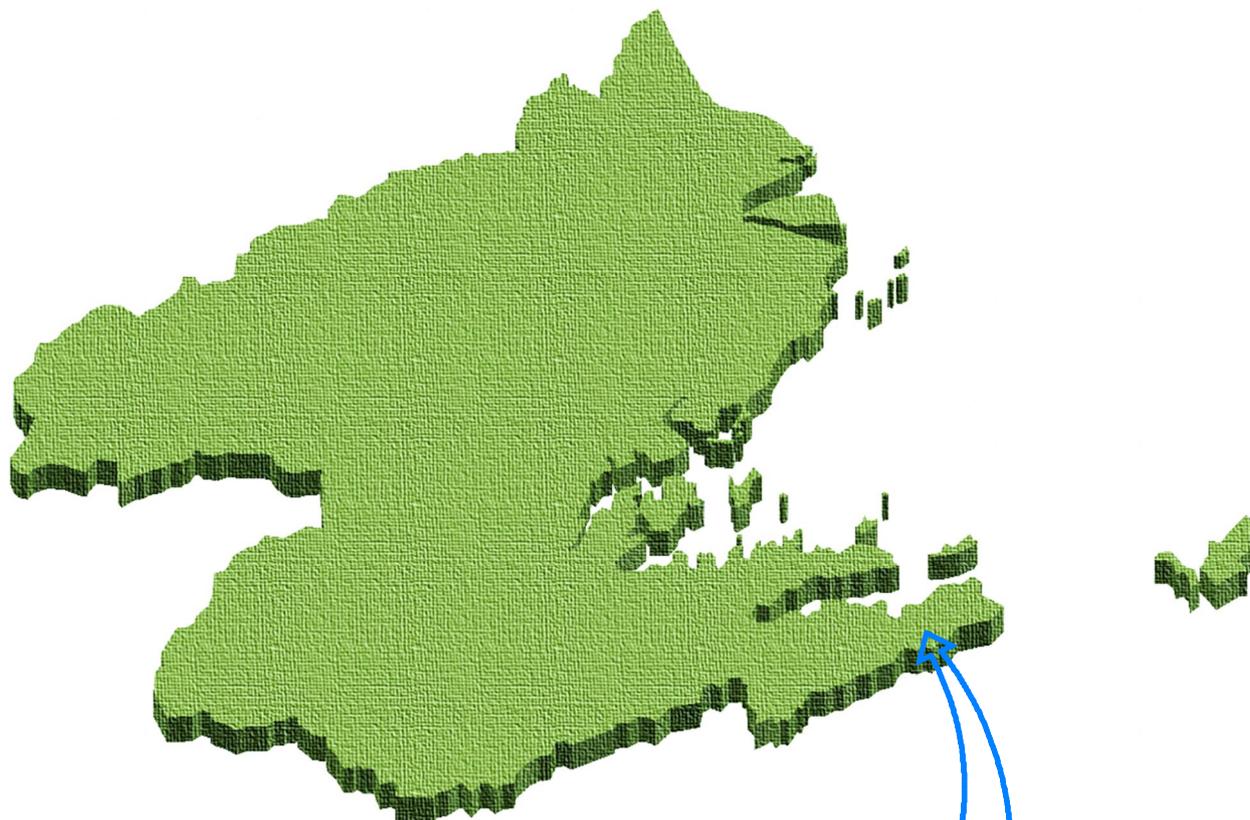


阿南市トンネル長寿命化修繕計画

2025年3月



四国最東端 蒲生田トンネル

阿南市の現状

我が国の社会資本は高度経済成長期に集中的に整備され、今後一斉に老朽化することが懸念され、社会資本の維持管理・更新は国のみならず、地方公共団体等も含めた大きな問題であり、如何に維持管理・更新するかが求められています。

現在、阿南市では、トンネルを3箇所管理しており、2トンネルについては、建設後50年以上を経過しています。今後、老朽化の進行及び管理費用の増大が予測され、地域住民の安全・安心を確保し、長期的にトンネルを利用するために適切な維持管理が求められています。

長寿命化修繕計画の策定

長寿命化修繕計画の目的

利用者の安全性、信頼性の確保のため、従来の損傷が顕在化してから行う対症療法的な修繕（事後保全型）から、適切な時期に対応する予防保全的な修繕（予防保全型）へ転換を図り、個別施設毎の長寿命化計画を構築することによるトータルコストの縮減・平準化を目的とします。

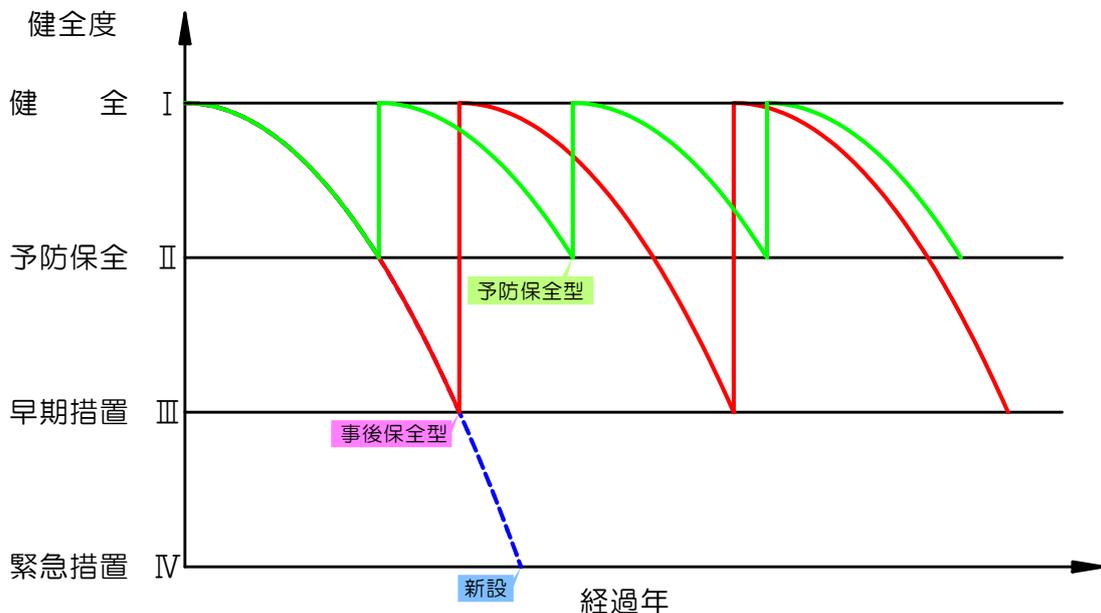


図-1 予防保全型と事後保全型

長寿命化修繕計画の対象トンネル

阿南市が管理する3トンネル（蒲生田トンネル、元信一号隧道、元信二号隧道）

トンネル名	路線名	建設年次 (年)	延長 (m)	道路幅 (m)	所在地
蒲生田トンネル	市道平松蒲生田線	2005	294.1	6.5	阿南市椿町
元信一号隧道	市道友常元信線	1953	59.0	4.5	阿南市新野町
元信二号隧道	市道友常元信線	1953	16.0	3.9	阿南市新野町

位置図

蒲生田トンネル



阿南市椿町

元信一号隧道、元信二号隧道



阿南市新野町

長寿命化修繕計画の基本方針

- ✓ 5年に1度、近接目視点検により定期点検を実施します。
- ✓ 定期点検結果に基づき、個別施設の状態、健全度を把握します。
- ✓ 日常的な道路パトロールを実施し、施設の状態を監視します。
- ✓ 予防保全管理へ転換を図り、優先順位、施設の必要性等を踏まえた修繕・更新を施設毎に計画します。
- ✓ 個別施設毎の長寿命化計画を構築し、効果的な維持管理によるトンネルの長寿命化及びトータルコストの縮減・水準化を実施します。
- ✓ 計画期間を20年とし、予防保全型管理に向けた計画、維持管理に係るコストの縮減を計画します。

メンテナンスサイクルの構築

基本方針を基とした個別施設毎の長寿命化計画の策定により、管理水準の転換、維持管理事業の平準化を実施します。また施設毎のメンテナンスサイクル^{注)}を構築し、中長期的に効率的・効果的な維持管理を実行します。

併せて、計画的な管理・更新により、トンネル機能を適切な状態に継続させトンネルの延命に繋げていきます。

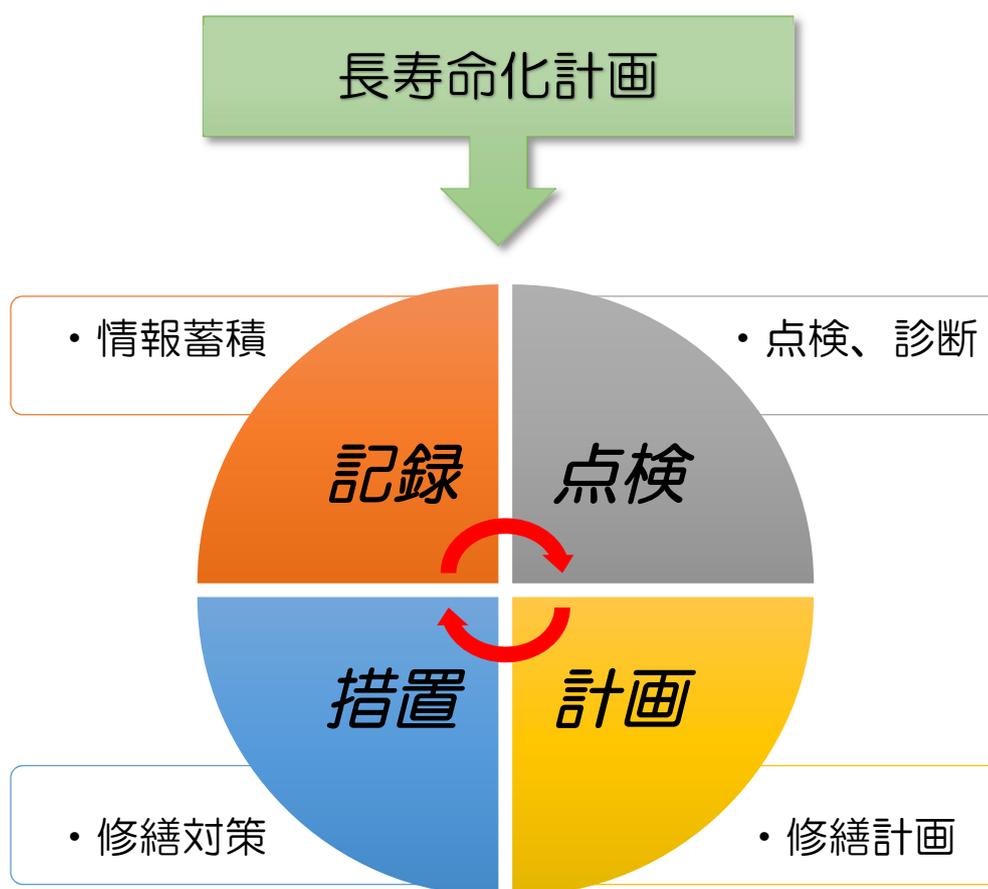


図-2 メンテナンスサイクル

注) メンテナンスサイクル

社会インフラ設備の維持管理を効率的に行う方法
点検・診断・措置・記録等を一つのサイクルで回す仕組み

長寿命化修繕計画による効果

試算結果から事後保全型から予防保全型への転換により、今後 20 年間に
 においては維持管理費用の約 50%の削減効果が見込まれ、個別施設計画
 に基づいた予算の平準化が図られます。

また、効率的・効果的な維持管理を実施することにより、利用者の安全
 性、信頼性及び地域住民の安全・安心の確保が期待されます。

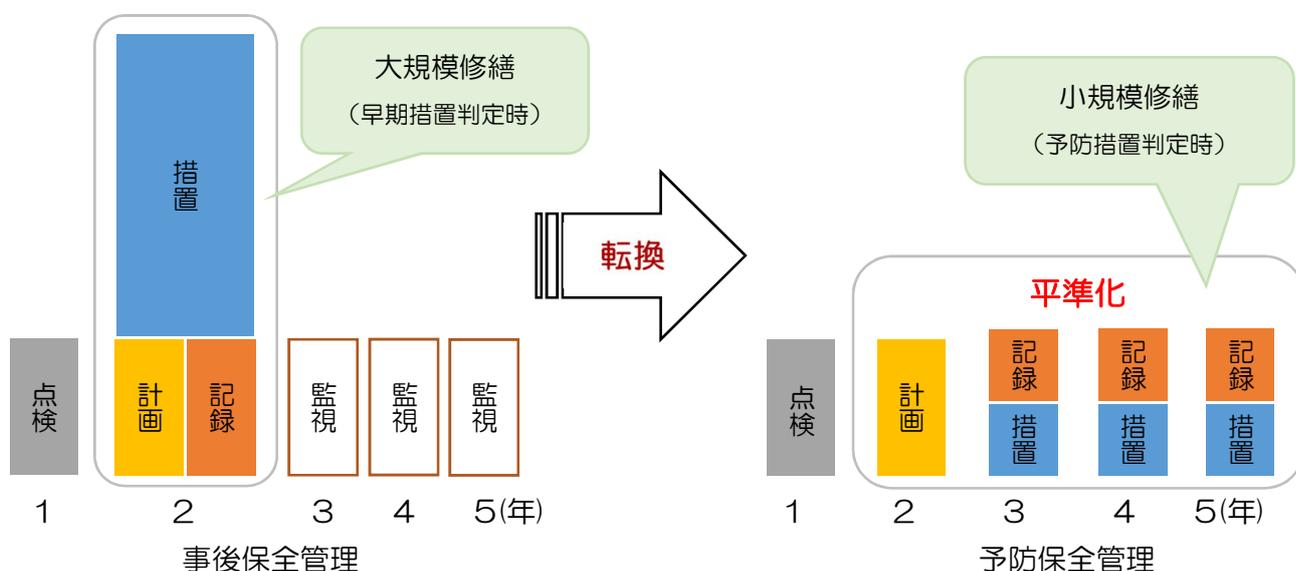


図-3 管理水準転換及び平準化（5年間）のイメージ図

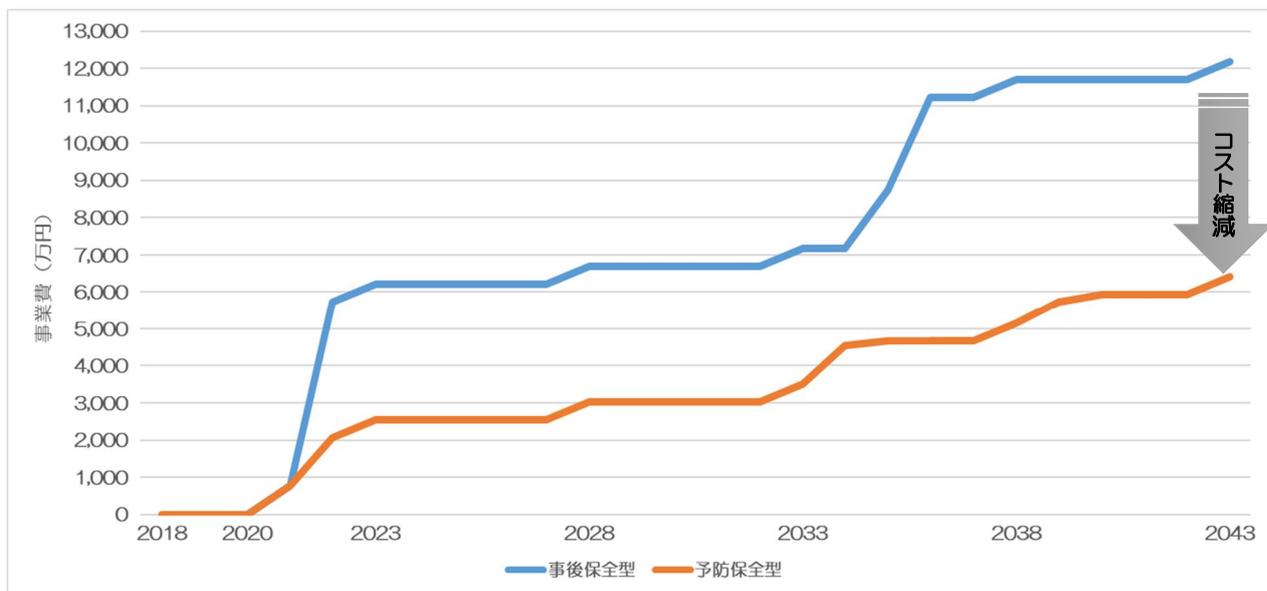


図-4 累積事業費

個別施設の状態

維持管理の一環として、道路トンネル定期点検要領（R6.3 国土交通省道路局）に準拠し、健全性の判定区分による状態の把握を行っています。

トンネル名	建設年次 (年)	延長 (m)	道路幅 (m)	スパン数	健全性 判定区分
蒲生田トンネル	2005	294.1	6.5	35	Ⅱ
元信一号隧道	1953	59.0	4.5	8	Ⅲ
元信二号隧道	1953	16.0	3.9	3	Ⅱ

対策の優先順位

対策の優先順位については、各トンネルの状態、果たしている役割、機能、重要性等を考慮し、決定しました。

まず、健全性の判定区分を最優先とし、判定区分が同一のトンネルについては、路線の重要性等を考慮し、評点法を用いた総合的な評価を行い、評点の合計点が高い順に優先順位を決定しました。

評点	評価項目 1	評価項目 2	評価項目 3	評価項目 4
	路線の重要性 (迂回路の有無)	利用性 (道路幅)	トンネル延長	補修対策
3	無	5.0m以上	100m以上	無
2	-	4.0m以上 5.0m未満	50m以上 100m未満	-
1	-	4.0m未満	50m未満	-

新技術等の活用

計画的な維持管理・更新を目指し、今後、トンネルの点検・診断や長寿命化修繕工事を実施するにあたっては、新技術や技術開発の動向を把握し、点検調査については『点検支援技術性能カタログ』、修繕工事については『新技術情報提供システム（NETIS）』等を参考に、導入の検討を進め、有効な新技術の活用検討に取り組みます。

費用の縮減に関する具体的な方針

阿南市が管理している3トンネルを対象に、令和16年度までに、『新技術情報提供システム（NETIS）』等を参考に、補修工法の選定において新技術の活用を検討し、維持管理コスト約20万円の縮減を目指します。

集約・撤去に関する具体的な方針

道路施設は、地域経済の活性化や生活環境の向上など、市民生活に欠かせない最も基礎的な社会資本であり、集約化・撤去のあり方については、利用状況や代替施設を考慮のうえ、市民との合意形成が必要不可欠です。

計画対象の3トンネルについては、迂回路が存在せず、集約化を目指すことは現実的ではないと判断され、短期的な目標設定は行っていません。

計画策定担当部署

〒774-8501 徳島県阿南市富岡町トノ町12番地3

阿南市 建設部 土木課

Email : doboku@anan.i-tokushima.jp

TEL : 0884-22-1595 FAX : 0884-22-5211

